

カテゴリ:新事業領域

 2025年6月27日
 第25033号

NEDO ReAMoプロジェクト「ドローンの多数機同時運航」に採択

～実際のビジネス活用を想定した安全管理要件を策定します～



2025年6月12日、JALは、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(以下、NEDO)が推進する「次世代空モビリティの社会実装に向けた実現プロジェクト」において、操縦者が一人で複数のドローンを安全に運航する「一対多運航」を実現するための要素技術と当該技術に対する性能評価手法の開発(以下、本プロジェクト)(*)(*2)に採択されました。本プロジェクトを通じて、実際のビジネス活用を想定した安全管理要件を策定し、国のガイドラインや制度設計への活用も図ってまいります。

(*) 2025年度「次世代空モビリティの社会実装に向けた実現プロジェクト」に係る実施体制の決定について

https://www.nedo.go.jp/koubo/SR3_100015.html

(*2) NEDO「ReAMoプロジェクト」 <https://reamo.nedo.go.jp/>

本プロジェクトにおいて、今後期待される物流をはじめとした複数の活用事例を想定し、運航管理システムと連携したレベル3.5およびレベル4(*3)における「多数機同時運航」を実証します。これにより、運航形態や事業に応じたリスク評価のプロセスを体系化し、安全管理要件として策定のうえ、航空局のガイドライン・制度設計への活用も図ってまいります。

■本プロジェクト

研究開発項目	ドローンの1対多運航を実現する 機体・システムの要素技術開発	ドローンの1対多運航を実現する 適合性証明手法の開発
事業名	複数ユースケースにおける多数機同時運航の事業化に向けた統合的な研究開発	ドローンの多数機同時運航の普及拡大に向けた安全管理要件の策定
実施体制	KDDI株式会社 日本航空株式会社 イームズロボティクス株式会社	日本航空株式会社 PwCコンサルティング合同会社
JALの 主な役割	<ul style="list-style-type: none"> ・運航管理手法の要件検討 - 安全性評価技術の開発 - 物流ユースケースにおける多数機同時運航実証の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・国(航空局)が策定するガイドライン・制度設計への連携 ・安全管理要件の検討 (運航者視点の要件提案など)



人口減少・高齢化を背景に、さまざまな社会課題の解決のため、物流やインフラ点検などの領域において更なるドローンの利活用が期待される中、事業性をもって実用化を目指すべく、操縦者一人が複数機を同時運航し効率性を高める「多数機同時運航」の実施、および、運航に必要な運航管理システムなどの開発が進められています。

今後も、JALは官民連携した本プロジェクトはじめ、これまでの取り組み(*4)(*5)(*6)から得た知見も合わせることで、安心してドローンが利活用される社会の実現に貢献してまいります。

(*3) 多数機同時運航に対応した第一種型式認証取得機体は現存しないため、本実証ではレベル4相当にて運航を予定

(*4) 2025年6月5日リリース「JAL、日本初となる「ドローンサービス品質認証(JIS Y1011)」を取得」

<https://press.jal.co.jp/ja/release/202506/008851.html>

(*5) 2024年7月29日リリース「JALのドローン人財育成プログラムを拡充し、安全運航を担う方へ向けた新しい講座を開設します」

<https://press.jal.co.jp/ja/release/202407/008210.html>

(*6) 2022年12月14日リリース「JALエンジニアリングとプロドローン、ドローンに関する技術協力を開始」

<https://press.jal.co.jp/ja/release/202212/007111.html>



JIS Y1011 認証番号: DSQ-0500125

以上